

勤務医ニュース

発行所
長崎県保険医協会
長崎市恵美須町2-3
電話 095(825)3829
FAX 095(825)3893
発行人 本田 李也

「新型コロナ禍における 県下地域医療の現状と課題」



地域医療の第一線でご活躍されている
井上健一郎先生（井上病院）、高山隼人先生（長崎大学病院）
による寄稿特集



高山 隼人先生

長崎大学病院地域医療支援センター
副センター長
ながさき地域医療人材支援センター
センター長

はじめに

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）は、2019年に中国から最初の報告があり、瞬く間に全世界に広がり、現在でも猛威を振るっています。日本国内では、2020年1月に最初の感染者が報告され、11月末現在で、日々全国の最多感染者数を更新している状況です。

さて、長崎県では3月11日に壱岐市にて最初に1例が確認され、県では新型コロナウイルス感染症対策調整本部が立ち上がり活動を開始しました。医療側の本部員として、リーダー泉川先生（長崎大学病院感染制御教育センター）：感染・病床管理担当、サブリーダー高山：搬送調整担当が参加しました。感染症指定医療機関の体制作り、ドライブスルー形式のスクリーニングセンター（地域外来・検査センター）準備、県内の医療体制に向けたフェーズ作成、離島からのCOVID-19患者の搬送体制作り、宿泊療養施設準備などを行っていきました。緊急事態宣言による行動制限と県民が

マスク・手洗い、3蜜の回避などを行った結果、4月17日に17例目が発生した以後新規発生が止まりました。その後、コスタ・アトランチカ号での乗組員のクラスター対応は、皆様の記憶に残っていることだと思います。7月に第2波が起こり、12月に入っても全国的に第3波のピークが見えない状況です。長崎県としては、医療施設や高齢者施設で発生した際に各団体の協力による職員の支援、医療支援チームの派遣などの体制を整えているところです。

長崎県の地域医療の現状と問題点

地域医療は、5疾病・5事業（がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患、救急、災害、へき地、周産期、小児）及び在宅医療の医療体制などを医療圏単位で議論し、図1のように二次医療圏単位で整備されています。COVID-19の対応も同様で、感染症指定医療機関・新型インフル等協力医療機関（以下、指定医療機関等）の協力で病床確保や検査体制整備が行われています（表1）。離島や県南医療圏では、重症患者の対応を行うことにより通常の救急医療体制の維持が困難に陥り易いため、リスクのある患者に対して早めの搬送を計画し実施してきました。本土地域は、隣接地域での患者の入院受入調整が必要になりますので、フェーズ移行は一体となった運用を行っています。

陽性患者の入院対応は、感染防止のためにPPE着用



図1 二次医療圏(長崎県地域医療構想p1-4-2より引用)

表1 二次医療圏単位のフェーズ毎の病床確保計画

フェーズ	1	2	3	4
全県	65	129	248	395
長崎	24	38	77	125
佐世保・県北	17	20	39	88
県央	4	24	50	68
島原	4	8	20	28
五島	4	10	23	23
上五島	4	7	17	17
壱岐	4	10	10	21
対馬	4	12	12	25

による治療やケアを行うため複数での対応が基本となります。COVID-19の重症度が増すに従って、医師では呼吸器内科を中心とした内科医師と共に救急集中治療医が加わり、看護師の増員や臨床工学技士など複数の

医療職が関わってきます。指定医療機関等では、フェーズ1の対応であっても感染症病床の人員では足りず看護師等の配置を増やす必要があり、更に増床するためには、他の病床を複数閉鎖して人員を確保しています。そのため、患者の転床や新規受入制限、手術制限など行うことになり、通常の入院対応に影響がでることになります。

今後の課題と対応

COVID-19患者の増加やインフルエンザの増加などによる有熱者の対応のために外来・検査センターとしての業務

が増えることで、指定医療機関等に大きな負荷となる恐れがあり、これにより通常救急医療体制が維持できなくなることが予想されます。第3波の中、周囲の都道府県では確実に陽性患者が増えつつあり、長崎県でも各医療圏で発生する可能性を秘めています。現在、インフルエンザとのダブル流行に備え、発熱患者が指定医療機関等だけではなく、かりつけ医等の身近な医療機関に受診できるように「診療・検査医療機関」の登録・指定が行われています。より多くの医療機関に協力していただけるように望みます。

御自身が感染し診療継続ができなくなることを恐れて「発熱患者お断り」の看板や掲示を行ったとしても、今後は無症候性感染者を防ぐことはできないと思われます。医療者として、正しく恐れて、必要な感染予防を怠らないことが重要です。県下の医師会の先生方と指定医療機関等が協力して、県内医療者の総力でCOVID-19の難局を乗り切ることを期待したいと思います。